

かおさ柔道

平成17年3月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒431-0302 静岡県浜名郡新居町新居3035-6 石黒金次
TEL・FAX (053) 594-2403

「巻頭言」

礼に始まって礼に終る—— 柔道ルネッサンスに向けて

静岡県柔道協会副会長 七段 永田重郎

わが静岡県も一級審査実施に踏みきってほぼ一周年になりました。案ずるより産むが安し——回を重ねる毎に充実、軌道に乗ってきたように思われますが、いかなるものでしょうか。むろん審査に当たられる先生方の御苦労あってこそその成果ですが、大変喜ばしい限りです。

何ごともそうでしょうが、「基礎・基本」の大切なことは強調しすぎることはないと思います。一級審査受験者のレベルを伺うに、受け身はもろろん、諸々の基本動作、基礎体力、どれをとってみても未熟というのが率直な感想です。

おそらくはなにより「指導者不足」に起因しているのでしょう。高校柔道部においても専門の指導者が年を追って減少してきている、ましてや中学の柔道部顧問となると、有段者は少なく——これでは、正しい柔道の基本をしつかり学び・習得し



の基本は「礼法」であることはいうまでもありません。「礼に始まって礼に終る」と言われるようにどの「形」をとっても、始めの礼と終わりの礼は重要なポイントになっています。

ところが、日ごろの稽古や試合を見るに、初心者ばかりか、黒帯を締めるようになっても、かなりの技倆を身につけた選手であっても、正しい礼法が守られず、軽視されているのではないかと思われることしばしばです。

私見によれば「座礼」こそ礼法の基であり、「正座」こそ基本姿勢であると考えられます。そもそも正座が普及したのは江戸中期ごろといわれています。武家社会における上下関係さらには茶道・武道の発展がその背景にあるのでしよう、畳の上で行われる競技である柔道が正座を重視するのは至極もつとものことだといわなければなりません。

柔道の正座法は、「顎を引き脊柱を伸ばし腹部を前方に臀部を後方に突き出し、拇指を重ね

て座り、幾分上体を前方に傾けること、拇指を重ねる際には右拇指を上にする事」であり、す。いわゆる「指座」ということになります。嘉納師範は、道場での座わり方について正座が最も良いとする理由として「チャンと姿勢が真っ直ぐになりやすい、姿勢が真っ直ぐになると胸隔が開ける」と説かれています。又、右拇指を上にするのは、右利きの原理にもとずいて、「右起左座」の敏速な対応を可能にする準備姿勢であると考えられます。

形講習や一級審査会の地道な積み重ねが少しずつ効を奏してきたのか、最近、審査会や月次試合の参加者の礼儀がよくなってきたことを実感します。道場への礼、互いの挨拶、履物の整頓など、まさに「柔道ルネッサンス」へ向けて歩一歩前進の兆しが見えてきたということではないでしょうか。

わかふじ国体成功をスプリングボードとして、今や「柔道しかおか」躍進の好機到来です。まずは、正しい柔道を一人でも多くの人たちに体験してもらい、底辺を拡大、柔道人口をふやしていくために柔道協会一丸となって取組もうではありませんか。

「NEW!!わかふじ国体」再現ならず

10月24日から26日にかけて、第59回国民体育大会秋季大会柔道競技が埼玉県上尾市の埼玉県立武道館で行われた。静岡県チームは成年男子、少年男子、少年女子の3部門に出場した。昨年、浜北市で行われた「NEW!!わかふじ国体」の興奮が忘れられない国体だが、早いもので1年が過ぎた。今年の国体の様子をチームのトレーナーとして参加した伊藤武治さんより報告してもらう。

また、選手として2年連続して出場した、松本笑嘉さん（磐田東高等学校3年）に感想を寄せていただいた。

国体に出場して…

磐田東高校 松本笑嘉

私は静岡県国体、埼玉国体に出場する事ができ、とても良い体験をさせて頂く事ができました。一昨年の高知国体の東海予選で私が目標としていた永手先輩が本戦では選考にもれ出場する事ができなかったもので、昨年の静岡県国体では何としても先輩のリベンジを果たすために練習に励みました。

そして静岡県国体では中堅として出場する事ができ、一回戦対埼玉県で先鋒の失点を取り返すべきでしたが、守りがかたく引き分けだったので悔しかったです。

また今年の埼玉国体では大将として出場し、一対一の内容負けで自分の出番がまわってききました。ここでも何が何でもポイントを取らなければならなかったのですが、相手の動きが早く自分の技を十分に出す事ができず引き分けで、チームに貢献できなかった事が心残りです。

国体に二年連続出場する事ができ、色々な勉強をさせて頂き、

日頃の西島先生の御指導及び諸先生方に対し感謝の気持ちで一杯です。

また東海大学に進学が決まりましたので、今まで以上に精進し、来年の岡山国体では、成年の部で選手になれるよう頑張ります。

まごころ国体報告

浜名高校教諭 伊藤武治

総合優勝目指して臨んだ五十八NEW!!わかふじ国体から早いもので一年が過ぎ、新たな気持ちで永田重郎総監督以下総勢二十名で「彩の国・まごころ国体」に参加してきました。昨年は役員であったため、大会施設・運営に目がいつてしまい、「経費削減」のため街の盛り上がりや対応に静岡国体と比べると物足りなさを感じられました。

少年男子は一回戦で大阪を宮前・増田の活躍で2対0と勝ち上がり、二回戦で地元埼玉と対戦しました。不本意な反則（警告）で優勢負けした朝比奈、何度かチャンスがあった宮前、健闘した山田、一瞬のスキをつかれた増田、勝負に出た加藤、地元の応援により試合の流れがこ

ないまま0対3で敗退。少年女子は一回戦で小柄な選手主体ではあるが東北地区二位で本大会出場の宮城と対戦。1・2・3年生のチームで若さが出てしまった試合であった。自分の組み手が上手くできなかった。剣持、確実に一本取れなかった内之倉、攻めきれなかった松本、1対1の内容負け。成年男子は二回戦に一回戦で富山を破って進出してきた福岡との対戦。減量で苦しんだ渡部の見事な腕挫十字固、積極的に攻撃した川端、多数の審判合議で試合の流れに乗れなかった小椋、慎重になりすぎた齊藤、健闘したが防御になってしまった吉田、1対1で引分け・代表戦小椋選手善戦むなく一本負け。三種別とも最後まで締めずに自分の力を出し切ったと思いません。今回の試合の経験を次につなげ、さらなる飛躍を期待します。最後に静岡県チームが一丸となって国体に参加できたことに感謝します。

試合結果

成年男子 2回戦

静岡1(代表戦) ①福岡

(先) 渡部○十字固 窪山

(次) 川端 × 坂本

(中) 小椋 × 川波

(副) 齊藤 × 松崎

(大) 吉田 袖釣腰○江上

(代) 小椋 合技○松崎

少年男子 1回戦

静岡2 0大阪

(先) 朝比奈 × 多田羅

(次) 宮前○ 有効 山口

(中) 山田 × 中田

(副) 増田○ 有効 片渕

(大) 加藤 × 窪田

少年男子 2回戦

静岡0 3埼玉

(先) 朝比奈 警告○秋元

(次) 宮前 × 田村

(中) 山田 × 中島

(副) 増田 内股○小林

(大) 加藤 有効○岡村

少年女子 1回戦

静岡1 (内容) ①宮城

(先) 剣持 合技○大場

(中) 内之倉○有効 梁川

(大) 松本 × 栗野



成年男子



少年男子



少年女子

59回国民体育大会出場選手・役員

総監督	永田重郎	会社役員
総務	野田昭一	静岡学園高校教員
総務	渡辺達也	静岡県警察
トレーナー	伊藤武治	浜名高校教員

成年男子		
監督	米山安基夫	静岡県警察
先鋒	渡部成也	静岡県警察
次鋒	川端常弘	順天堂大学
中堅	小椋俊彦	静岡県警察
副将	斉藤和仁	静岡県警察
大将	吉田卓実	聖明病院

少年男子		
監督	宮本昌人	常葉学園橘高校教員
先鋒	朝比奈竜真	東海大翔洋高校
次鋒	宮前稔	東海大翔洋高校
中堅	山田大祐	浜松商業高校
副将	増田龍二	静岡学園高校
大将	加藤悠馬	常葉学園橘高校

少年女子		
監督	沼野由香利	藤枝順心高校教員
先鋒	剣持友美	藤枝順心高校
中堅	内之倉奈未	磐田東高校
大将	松本笑嘉	磐田東高校

その他の主な試合結果

- 第29回全国教員柔道大会
(8月9日、津山東体育館)
2回戦 静岡0-2栃木
- 第20回道道府県対抗全日本女子柔道大会
(6月19日・20日、岡山武道館)
予選リーグ
静岡2-0山形
静岡3-1長崎
決勝トーナメント
1回戦 静岡0-3茨城

高柳会長 県体育章を 受賞される

静岡県柔道協会の高柳会長が今年度の静岡県体育協会体育章(功労賞)を受賞されました。受賞を記念した祝賀会が七月三日(土)浜北市で開催された。長年に渡る浜北市体育協会における活動や、静岡県体育協会や静岡県柔道協会での活動が高く評価されている。

当日は長谷川浜北市長や浜北市議会関係者、浜北市体育協会関係者、県及び地区柔道協会関係者、浜松商業高校柔道部関係者など百数十名出席し、高柳会長の受賞をお祝いました。



平成15年柔道祭記録

第45回静岡県柔道祭

平成15年4月27日(日)

静岡県武道館

柔道協会表彰

功労賞

- 六段 土屋 弥生
- 六段 今野 伸俊
- 六段 芹澤 正司郎
- 六段 植松 明義
- 六段 川合 達彦
- 六段 船越 雅人
- 五段 佐野 健雄
- 五段 藤巻 文雄
- 五段 中津 正義
- 五段 野々山 彰彦
- 五段 鈴木 紀一
- 四段 山下 年弘
- 四段 神山 信之
- 三段 中村 和久

優秀選手賞

松本笑嘉(磐田東高校)

第25回全国高等学校柔道選手権大会女子70kg級第3位

鈴木美穂(天竜林業高校)

第25回全国高等学校柔道選手権大会女子78kg級第3位

講道館柔道形の部優秀賞

投の形

倉田政彦・中村秀徳

(福田柔道クラブ)

柔の形

一瀬 誠・竹内紀久夫 (浜北市柔道協会)

極の形

熊谷幸洋・杉本昌司 (瀧井道場)

古式の形 西島温行・磯部正博 (福田柔道クラブ)

試合結果

小学校の部

- 1位 育誠館道場
- 2位 神士館
- 3位 福田柔道クラブ
- 3位 友愛道場

中学校の部(男子)

- 1位 静岡学園中学校
- 2位 浜北北部中学校
- 3位 田代道場
- 3位 長田西中学校

中学校の部(女子)

- 1位 富士宮第二中学校
- 2位 静岡学園中学校
- 3位 北浜中学校
- 3位 福田柔道クラブ

高校の部(男子)

- 1位 静岡学園高校
- 2位 浜松商業高校
- 3位 飛龍高校
- 3位 東海大学付属翔洋高校

高校の部(女子)

- 1位 天竜林業高校
- 2位 磐田東高校
- 3位 庵原高校
- 3位 東海大学付属翔洋高校

一般の部

- 1位 富士宮柔道会
- 2位 韭山柔道教室
- 3位 瀧井道場
- 3位 静岡県警察機動隊

優秀選手

- 小学校の部 バルボザ・カツヒロ (育成館道場)
- 福長 悠(神士館)
- 中学校の部(男子) 遠藤 仁(静岡学園中学校)
- 伊藤賢太(浜北北部中学校)
- 中学校の部(女子) 中坊彩葉(富士宮第二中学校)
- 増田奈美(静岡学園中学校)
- 高校の部(男子) 増田龍二(静岡学園高校)
- 竹上桂吾(浜松商業高校)
- 高校の部(女子) 小野川みき(天竜林業高校)
- 松本笑嘉(磐田東高校)
- 一般の部 高岡 健(富士宮柔道会)
- 秋田芳和(韭山柔道教室)

第1回全国小学生学年別柔道大会

8月21日(土) 22日(日)

伊勢原市体育館

5年男子-40kg級 宮川翔伍(高山柔道塾)

決勝トーナメント1回戦進出

5年男子+40kg級 西畑敬士郎(育誠館道場) 予選リーグ敗退

6年男子-45kg級 花村恭介(伊豆長岡柔道会) 予選リーグ敗退

6年男子+45kg級 西畑佑斗(育誠館道場) 決勝トーナメントベスト8進出

5年女子-40kg級 片岡まゆ(伊豆長岡柔道会) 予選リーグ敗退

5年女子+40kg級 中村 優(三島柔道会) 予選リーグ敗退

6年女子-45kg級 神山結理(神士館) 予選リーグ敗退

6年女子+45kg級 小泉寛夏(伊豆長岡柔道会) 準優勝

第35回全国中学校柔道大会

8月21日(土) 24日(火) 埼玉県立武道館

男子団体戦 静岡学園中学校 予選リーグ敗退

女子団体戦 富士宮第二中学校 決勝トーナメント1回戦進出

男子個人戦

55kg級 庄司匡道(静岡学園中学校) 初戦敗退

60kg級 正治和也(長岡中学校) 初戦敗退

66kg級 大木英司(静岡学園中学校) 2回戦進出

73kg級 堀内将志(韭山中学校) 初戦敗退

81kg級 野村俊介(静岡学園中学校) 3回戦進出

90kg級 川口佑樹(三島南中学校) 3回戦進出

90kg超級 杉本英亮(沼津第三中学校) 初戦敗退

女子個人戦

44kg級 岡本愛梨(東海大学付属翔洋中学校) 初戦敗退

48kg級 加賀谷千保(観山中学校) 初戦敗退

52kg級 佐野光香(富士宮第二中学校) 初戦敗退

57kg級 勝呂 綾(富士宮第二中学校) 準々決勝進出 第5位(ベスト8)

63kg級 鈴木友理(長岡中学校) 2回戦進出

平成16年柔道祭記録

第46回静岡県柔道祭

平成16年5月9日(日)

浜北市総合体育館

柔道協会表彰

特別功労賞

六段 森下 数

功労賞

- 七段 伊藤 三四郎
- 六段 斉藤 圭司
- 六段 米山 安基夫
- 六段 海野 良信
- 六段 石田 隆
- 五段 小林 繁雄
- 五段 田旗 敬造
- 五段 中村 正之
- 五段 鈴木 紳次郎
- 五段 岡本 興則
- 五段 青島 健
- 五段 勝呂 良三
- 五段 宮本 昌人
- 四段 伊藤 勇司
- 四段 猪又 猛

優秀選手賞

岩藤理恵(三井住友海上保険株)

第27回全日本女子柔道選抜体

重別選手権大会57kg級優勝

遠藤若奈(静岡県警察)

第33回全日本実業団柔道体重別

選手権大会女子48kg級第3位
 第29回講道館杯全日本柔道体重別選手権大会女子48kg級第3位

3位 三島柔道会
 3位 東海大学付属翔洋中学校
 中学校の部(女子)

鈴木美穂(天竜林業高校)

第26回全国高等学校柔道選手権大会女子78kg級第3位

榎大会女子78kg級第3位

1位 静岡学園中学校
 2位 伊豆長岡柔道会
 3位 高山柔道塾
 3位 北浜中学校
 高校の部(男子)

講道館柔道形の部優秀賞

投の形

小山 岳・木内好彦

(富士市体育協会)

固の形

森下良男・山下朝司

(浜北市柔道協会)

護身術

酒井義之(江西柔友会)

中村寿一(西部地区柔道協会)

五の形

西島温行・磯部正博

(福田柔道クラブ)

試合結果

小学校の部

1位 伊豆長岡柔道会

2位 高山柔道塾

3位 三島柔道会

3位 藤枝柔道倶楽部

中学校の部(男子)

1位 静岡学園中学校

2位 高台中学校

優秀選手

石井都百希(伊豆長岡柔道会)

渡辺 漢(高山柔道塾)

中学校の部(男子)

山下諒輔(静岡学園中学校)

笹田康三郎(高台中学校)

70kg級 増田奈美(静岡学園中学校) 準々決勝進出 第5位(ベスト8)
 70kg超級 村瀬晴香(富士宮第二中学校) 初戦敗退

第53回全国高等学校柔道大会

8月1日(日)~5日(木)

広島県呉市オークアリーナ

男子団体戦 静岡学園高校

女子団体戦 磐田東高校

男子個人戦

60kg級 朝比奈竜真(東海大学付属翔洋高校)

66kg級 宮前 稔(東海大学付属翔洋高校)

73kg級 森 健太(静岡学園高校)

81kg級 山田大祐(浜松商業高校)

90kg級 長島良次(常葉学園橘高校)

100kg級 増田龍二(静岡学園高校)

100kg超級 山下晃司(浜松商業高校)

女子個人戦

48kg級 青木優子(浜松商業高校)

52kg級 鈴木紀妙(浜松商業高校)

57kg級 神田 愛(常葉学園橘高校)

63kg級 馬場あゆみ(庵原高校) 準々決勝進出 第5位(ベスト8)

70kg級 内之倉奈未(磐田東高校) 初戦敗退

78kg級 鈴木美穂(天竜林業高校) 初戦敗退

78kg超級 滝川知美(東海大学付属翔洋高校) 初戦敗退

中学校の部(女子)

佐藤文香(静岡学園中学校)

牧野陽子(伊豆長岡柔道会)

高校の部(女子)

松本笑嘉(磐田東高校)

杉山希美(東海大学付属翔洋高校)

高校の部(男子)

馬場且博(常葉学園橘高校)

内野康太(東海大学付属翔洋高校)

一般の部

加藤 剛(育成館道場)

萩原 渡(静岡東部柔道クラブ)

平成15年県スポーツ祭記録

第57回静岡県民スポーツ祭

柔道競技大会

平成15年11月16日(日)

浜北市総合体育館

柔道協会表彰

優秀選手

岩藤理恵(三井住友海上保険株)

第33回全国日本実業団柔道個人選手権大会女子57kg級優勝

内之倉奈美(福田中学校)

第34回全国中学校柔道大会女子63kg級準優勝

中村弘士

(東海大学付属翔洋中学校)

第34回全国中学校柔道大会男子90kg超級第3位

岡田絃味(天竜林業高校)

第6回全日本女子ジュニア体重別選手権大会78kg級準優勝

試合結果

成年の部(市対抗)

1位 総合警備保障(浜松)

2位 総合警備保障(静岡)

3位 富士市柔道会

3位 富士宮柔道会

成年の部(町村対抗)

1位 相良町体育協会柔道部

2位 葦山町柔道教室

3位 清水町柔道会

3位 豊田柔道クラブ

少年A男子の部(市対抗)

1位 東海大学付属翔洋高校

2位 静岡学園高校

3位 天竜林業高校

3位 吉原商業高校

少年B男子の部(町村対抗)

1位 葦山中学校

2位 伊豆長岡中学校

3位 大井川中学校

3位 新居中学校

少年B女子の部(市対抗)

1位 静岡学園中学校

2位 富士宮第二中学校

3位 北浜中学

少年A男子の部(町村対抗)

1位 葦山高校

2位 引佐高校

3位 土肥高校

3位 大井川高校

少年A女子の部(市対抗)

1位 天竜林業高校

2位 東海大学付属翔洋高校

3位 藤枝順心高校

3位 浜北西高校

少年A女子の部(町村対抗)

1位 庵原高校

2位 福田柔道クラブ

3位 大井川高校

少年B男子の部(市対抗)

1位 三島柔道会

2位 静岡学園中学校

3位 東海大学付属翔洋中学校

3位 富士宮柔道会

少年C(市対抗)

1位 育成館道場

2位 静岡錬心館

3位 静岡市東部柔道クラブ

3位 友愛道場

少年B男子の部(町村対抗)

1位 葦山中学校

2位 伊豆長岡中学校

3位 大井川中学校

3位 新居中学校

少年B女子の部(市対抗)

1位 静岡学園中学校

2位 富士宮第二中学校

3位 北浜中学

少年A男子の部(町村対抗)

1位 葦山高校

2位 引佐高校

3位 土肥高校

3位 大井川高校

少年A女子の部(市対抗)

1位 天竜林業高校

2位 東海大学付属翔洋高校

3位 藤枝順心高校

3位 浜北西高校

少年A女子の部(町村対抗)

1位 庵原高校

2位 福田柔道クラブ

3位 大井川高校

少年B男子の部(市対抗)

1位 三島柔道会

2位 静岡学園中学校

3位 東海大学付属翔洋中学校

3位 富士宮柔道会

少年C(町村対抗)

1位 育成館道場

2位 静岡錬心館

3位 静岡市東部柔道クラブ

3位 友愛道場

訃報

講道館八段鎌田保之先生が、去る平成十六年十二月十六日、行年八十五歳をもって逝去されました。

先生は大正九年静岡市に生まれ、県立静岡工業高校時代より柔道選手として活躍されました。卒業後本格的に技倆を磨かんと、当時強豪として知られた満鉄に入社、修行に専念するも敗戦により帰省を余儀なくされました。しかしながら柔道への情熱抑えがたく、師範大蝶美夫九段(故人)

を助け、静岡柔道倶楽部の基礎を築かれ、昭和52年よりは県協合理事として斯道発展のため多大の功績を残されました。一方自らも全国高段者大会の常連として好成績を上げ、二十回出場を果たされています。まさに生涯柔道の実践者として県柔道史にその名を留めるにちがいありません。謹んでその遺徳を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。(文責 望月)



功氏や竹内善徳氏がおり、また一級上には全日本選手権2位の長谷川博之氏があり、その中でレギュラー選手として活躍されました。

講道館七段岩本猪之先生が、平成十七年一月十一日、行年六十七歳をもって逝去されました。

大学卒業後は、静岡県立修善寺工業高校に保健体育の教師として赴任し、その後三島南、沼津東、裾野、沼津工業、沼津商業、富士高校に勤務されました。その間柔道部の指導はもちろん、高体連の東部支部柔道委員長としても重責を果たされました。

岩本先生は昭和十二年葦山町に生まれ、県立葦山高校、東京教育大学体育学部に進学されました。柔道部に所属し、特に大学では同級生に故猪熊

地域への柔道普及活動にも

平成16年県スポーツ祭記録

第58回静岡県民スポーツ祭

柔道競技大会

平成16年11月14日(日)

富士宮市民体育館

柔道協会表彰
優秀選手

岩藤理恵(三井住友海上保険株)

第34回全国日本実業団柔道個人選手権大会女子57kg級優勝

2004年アメリカ国際柔道大会女子57kg級第3位

内之倉奈美(磐田東高校)

第53回全国高等学校柔道大会女子70kg級準優勝

小泉寛夏(伊豆長岡柔道会)

第1回全国小学校学年別柔道大会小学6年女子重量級準優勝

試合結果
成年の部(市対抗)

- 1位 富士宮柔道会
- 2位 富士市柔道会
- 3位 総合警備保障(浜松)

- 3位 静岡東部柔道倶楽部
- 1位 相良町体育協会柔道部
- 2位 長泉柔道会
- 3位 清水町柔道会

成年の部(町村対抗)

- 1位 相良町体育協会柔道部
- 2位 長泉柔道会
- 3位 清水町柔道会

- 3位 清水町柔道会

3位 葦山町柔道教室

少年A男子の部(市対抗)

- 1位 静岡学園高校
- 2位 東海大学付属翔洋高校
- 3位 藤枝明誠高校
- 3位 市立沼津高校

少年A男子の部(町村対抗)

- 1位 引佐高校
- 2位 葦山高校
- 3位 横須賀高校
- 3位 新居高校

少年A女子の部(市対抗)

- 1位 東海大学付属翔洋高校
- 2位 天竜林業高校
- 3位 市立沼津高校
- 3位 浜北西高校

少年A女子の部(町村対抗)

- 1位 福田柔道クラブ
- 2位 庵原高校
- 3位 葦山高校
- 3位 小笠高校

少年B男子の部(市対抗)

- 1位 静岡学園中学校
- 2位 高草柔道クラブ
- 3位 東海大学付属翔洋中学校
- 3位 北浜東部中学校

少年B男子の部(町村対抗)

- 1位 新居中学校
- 2位 葦山中学校
- 3位 三ヶ日中学校
- 3位 福田柔道クラブ

少年B女子の部(市対抗)

- 1位 静岡学園中学校
- 2位 富士宮第二中学校
- 3位 市立沼津高校中等部
- 3位 高山柔道塾

少年B女子の部(町村対抗)

- 1位 新居中学校
- 2位 福田柔道クラブ
- 3位 長岡中学校
- 3位 大仁中学校

少年C(市対抗)

- 1位 高山柔道塾
- 2位 三島柔道会
- 3位 田代道場
- 3位 富士市柔道会

少年C(町村対抗)

- 1位 伊豆長岡柔道会
- 2位 大仁柔道会
- 3位 福田柔道クラブ
- 3位 清水町柔道会

尽力され、葦山町青年団柔道教室の指導にも力を尽くし、昭和四十六年には県青年祭で団体戦優勝し、全国大会出場を果たしています。昭和四十八年には葦山町柔道教室を創設し、会長として指導・運営の中心として活躍されました。折り申しあげます。

平成十年三月富士高校を最後に定年退職され、民生委員として地域に貢献されるとともに、趣味の社交ダンスや俳句を楽しみました。

先生の残された多大の業績を偲び、ご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

第27回全国高校柔道選手権大会静岡大会(新人戦)

平成17年1月22日(土) 29日(土) 静岡県武道館

団体の部

- 優 勝 静岡学園高校 女子63kg級 優 勝 伊藤綾香
- 第2位 浜松商業高校 女子70kg級 (浜松商業高校)
- 第3位 市立沼津高校 優 勝 内之倉奈未
- 第3位 東海大学付属翔洋高校 優 勝 永田優理子

個人の部

- 男子個人無差別 優 勝 山本健太 女子78kg級 優 勝 山口裕子
- 優 勝 山本健太 (浜松商業高校) 女子78kg超級 優 勝 山口裕子 (庵原高校)

女子個人48kg級 優 勝 剣持友美 (藤枝順心高校)

女子52kg級 優 勝 小田巻美妃 (静岡商業高校)

女子57kg級 優 勝 神田 愛 (常葉学園橘高校)

団体戦優勝校、個人戦男子無差別、女子個人各階級優勝者は、第27回全国高校柔道選手権大会(平成17年3月19日)団体戦・20日個人戦)に静岡県代表として出場する。

第1回マスターズ

柔道大会実施される

第1回日本マスターズ柔道大会が浜北市総合体育館（グリーンアリーナ）で12月2日（木）～4日（土）にかけて行われた。今年度の年間計画には無かった大会だが、日本マスターズ柔道協会（野口宏水会長）からの強い要請を受け、静岡県柔道協会主管で開催することになった。何分急な開催であったが、会長を始め関係者の尽力により無事開催され、第1回大会を成功裏に終了することができた。以下、大会の様子を簡単に報告する。

12月1日（水）大会前日、
夜9時からグリーンアリーナでの準備作業が始まった。地元の関係者を中心に約2時間かけて会場の設営作業が行われた。

12月2日（木）大会1日目、
形の部が行われた。「投の形」「固の形」「極の形」「柔の形」「五の形」「古式の形」「講道館護身術」の7部門が行われた。静岡県関係者では、「五の形」

の部で西島温行さんと磯部正博さんの組が優勝し、「極の形」の部で白井康二さん恵子さんご夫婦が準優勝だった。

12月3日（金）大会2日目、
男女の個人戦が行われた。全国各地から200名の参加があった。中には沖繩や北海道から参加された選手もおり、まさに日本全国からの参加であった。ただ、年齢別・体重別ということ、年齢が30歳から5歳刻みで11区分に分かれ、体重が男子では7区分に分かれているので、非常に細かく分かれることになり、中には参加者が1名だけとか参加者が0という区分がでてきてしまった。

しかし、参加された皆さんはこの日のために減量をしたとか、特別メニューでトレーニングを積んだという人もいて、和気あいあいとした雰囲気の中にも熱気のもった試合が行われた。試合は国際ルールで行われ、中には延長戦・ゴールデンスコア方式で時間いっぱい戦った試合もあった。静岡県関係者の優勝者は、30歳から34歳73kg級松村浩司さん、40歳から44歳66kg級中村秀徳さん、100kg級寺田万寿夫さん、45歳から49歳60kg級今野英一さん、66kg級磯部克博さん、65歳から69歳60kg級石黒金次さん、女子の部では白井恵子さん

が優勝した。

12月4日（土）大会3日目、
男女の個人無差別と団体戦が行われた。男子の無差別では30歳から34歳の部で小野寺剛さんが優勝した。また、男子団体戦では静岡県チーム（渡辺俊三さん、水嶋武彦さん、内藤克巳さん）が見事3位に入賞した。また、女子団体戦にはかつてのメダリストや全日本選手権大会で活躍した選手が出場し、元氣な姿を見せてくれた。

7月から準備を始めるといいう慌しい日程であり、第1回大会にできない状態で、準備を担当

した関係者のご苦労は並大抵ではなかったと思う。しかし、全国から多くの柔道愛好家が集まり、楽しくかつ真剣に試合できたことはすばらしいことだと思ふ。「柔道の愛好家が集い、柔道修行と健康増進の成果を競い、相互の友好を深める」という大会の目的は達成されたと思う。今回の経験が次回大会に生かされることを期待したい。



男子団体表彰式



大会役員、団体戦入賞者



開会式

柔道錬成大会開催される

8月10日(火)から12日(木)の3日間、平成16年度静岡県(藤枝市)地方青少年武道(柔道)錬成大会が、静岡県武道館で開催された。県下の中高校生約300名が参加し、中央派遣講師に警視庁の芳岡武五段と真喜志慶治五段、地元講師として静岡県警の渡辺達也六段と庵原高校の勝呂良三五段を迎えて行われた。

芳岡武五段と真喜志慶治五段の得意技の説明や乱取り稽古など充実した3日間の錬成大会だった。

大会に参加した静岡県立葦山高等学校の小柴茉実さんと、県高体連柔道専門部委員長の静岡県立御殿場高校の梶原和洋先生の感想を掲げておく。

努力は必ず実を結ぶ

葦山高等学校2年 小柴 茉実

この武道錬成大会に参加すると聞いたとき、2泊3日の合宿は大変そうだと思いましたが、技の勉強するのが楽しみでもありました。初日の立ち技では、芳岡先生と真喜志先生の得意技を教えていただきました。さすがに力・スピードが自分とは段違いで(こんなふうにはできないのにな)と感じました。なかなか先生方のようにはいきませんでしたが、相手への入り方・釣手と引手の使い方・重心はどこにかけるか、など今までは少し違うやり方を学びました。それらを自分の技にしていくためにも、普段の稽古の中でどんな挑戦していききたいです。仲間と技をかけあって、お互いに上達できたらどんなに楽しいだろうと思います。

仕方がないのかとあきらめかけていましたが、この言葉を胸に思います。この日教えていただいた寝技では、下からの攻めと四つん這いになった相手の返し方を教えていただきました。情けないことに前日の練習で怪我をしてしまい実技には参加できませんでしたが、これからの柔道に絶対役立てたいと思います。相手の帯をしっかり取って、自分が相手に近づいて返す。それほど難しいことではないように思われますが、見るのとやるのとは大違いです。考えるよりもとにかくやってみると教わりました。怪我が治ったら教えていただきたいことのひとつでも、迷わずできるようにになりたいです。

本物の技にふれる

御殿場高校 梶原和洋先生

「本物の技にふれる」スポー

ツを志す者にとって、これ以上の喜びはないはずである。この度、講師を務めていただいた芳岡、真喜志両先生はいずれも日本のトップレベル、世界で活躍する選手であり、その先生方に直接指導をいただく機会はそうはない。そのような中で、一日目には投げ技を、二日目には固め技をまさに、「本物の技」に直接触れながら指導をいただいた。足の運びに始まり、釣り手、引き手の使い方、また、寝技における返しのテクニクなど、懇切丁寧な指導に選手たちも、私たち指導者も夢中になった。この夢中にさせる力が「本物の技」なのであろう。

また、二日目午前には両先生の講話として、柔道を始めたきつ



講師を囲んで(開会式にて)

かけや、歩んできた道のりなどのお話をいただいた。その中でもっとも印象的だったのは真喜志先生の「日の丸を背負ったときの押しつぶされそうなプレッシャー」と、それに打ち克つための練習」という話だ。どんなに一流の選手だろうと、いや、一流であればこそ一人倍のプレッシャーを感じ、それを克服するためにには想像を絶するような練習をするのだということを改めて思い知らされた。

あと数日でアテネオリンピックが開幕する。明日のオリンピック選手を育成するためにも、このような「本物」に触れる機会が大切だと考える。今後益々このような会が催されることを切に願う。



寝技を指導中の真喜志五段

新人選手紹介コーナー

今年度活躍された期待の若い選手を紹介する。今年度の若手選手の活躍状況は、完全に女性がリードしていた。3月の第26回全国高等学校柔道選手権大会で天竜林業高校の鈴木美穂さんが女子個人78kg級で3位に入賞し、8月の第53回全国高等学校柔道大会では磐田東高校の内之倉奈未さんが女子個人70kg級で準優勝した。また、伊豆長岡柔道会の小泉寛夏さんは8月の第1回全国小学生学年別柔道大会小学6年女子重量級(45kg超級)で準優勝した。今回は全国大会で活躍した以上の3選手を紹介する。



鈴木美穂さん

鈴木さんは現在静岡県立天竜林業高校3年生です。柔道を始めたきっかけは、「中学校時代、体格の良さが活かせる競技というところで柔道が一番自分にあっている」と感じたことだそうです。今回の入賞に関しては、「自分の力だけではなく、左口先生の御指導や仲間の応援のおかげでこのような結果を残すことができました」と謙虚に語っています。今後の夢は「全国の舞台で活躍すること」だそうなので、これからも引き続きがんばってほしいものです。

高校卒業後は、名城大学法学部への進学が決まっており、さらに活躍されることを期待したいと思います。



内之倉奈未さん

内之倉さんは現在静岡県立磐田東高校の1年生です。柔道を始めたきっかけは、小学校2年生のときに友達に誘われたことだそうです。初出場の柔道大会の小学校2年生の部で優勝し、柔道の魅力に取り付かれたようです。今回の大会での準優勝については「準優勝で半分悔しくて半分嬉しかった」と素直に語っています。また、「試合全体を振り返って、西島先生や先輩、応援してくださった人達の力が私に力をくれたと思います。これからは優勝を目指してがんばりたいと思います」という力強い決意も語ってくれました。

今後の夢は「どの試合でも確実に一本を取る柔道選手になることであり、最終的にはオリンピックで優勝すること」だそうです。



小泉寛夏さん

小泉さんは現在小学校の6年生です。柔道を始めたきっかけは「運動が苦手だった」からだそうです。今回の大会は第1回大会で、初代チャンピオンを惜しくも逃がしてしまい、本人も「くやしかった」と感想を述べてくれました。今後の希望は「決勝で負けた相手にリベンジしたい。そして、もっともっと強くなりたい」とのこと。今後が楽しみな小泉さんです。指導されている伊豆長岡柔道会の正治先生より「気性面や体力面で

です。指導されている西島先生より「大胆さと緻密さを兼ね備えた選手を目指すこと、それには実現に向けての意志の強さを己の道としてもらいたい」との助言がなされています。

* 編集後記 *

平成16年度はアテネオリンピックでの日本柔道チームの活躍もあり、柔道界にとってもすばらしい一年になりました。静岡国体で我が県の代表として活躍された上野選手の金メダルには感激しました。

しかし、その一方で国内では相次ぐ台風の襲来や、新潟中越地震、また海外ではイラク等東の不安定な状態は治まらず、スマトラ島沖大地震やインド洋大津波等の大きな自然災害が相次いでいます。

さて、今年度から「柔道しずおか」を一部変更しました。サイズをB版からA版に大型化し、活字も少し大きくできたと思います。内容については基本的には今までの編集方針を踏襲しましたが、今後さらに読みやすく親しまれる内容にしていきたいと思っています。ご意見などありましたら広報普及委員までご連絡下さい。